

研究ノート

保育士養成課程におけるピアノ初級者の 練習時間と学習到達度の調査研究 —ピアノ初級者へのアンケート調査から—

武 田 恵 美
扶 瀬 絵 梨 奈

1. はじめに

筆者たちは、保育士養成課程においてピアノの演奏技術を習得する科目を担当している。そして、子どもの豊かな感性や表現力を引き出すためにピアノ演奏の基礎技能を習得することは重要な課題であると考えている。

科目を受講する学生の音楽経験は、幼い頃から長年指導を受けている学生、幼い頃に指導を受けた経験がある学生、保育士を目指すことを決めた後に指導を受けた学生、本学入学まで全く指導を受けた経験がない学生など様々である。つまり、ピアノの演奏技術は、学生の音楽経験によって差があり、学生は卒業までの2年間で、保育現場において実践できるピアノの演奏技術を習得しなければならない。本学入学まで全く指導を受けた経験がない学生は、楽器の仕組み、演奏方法、演奏技術を学習することに対する疑問や不安を募らせ、その学習方法を模索しているように感じる。

ピアノ初級者に対する先行研究は、内山ら (2014) がピアノ初学者に対するソルフェージュ、音楽理論の必要性について研究している¹⁾。また、堀上 (2018) は、バイエル教則本²⁾によって得られる音楽性の限界を明らかにしている³⁾。

本稿では、「ピアノ補習」受講生に実施したアンケート調査より、ピアノ初級者の練習時間と到達度について分析し考察するものである。

2. 研究目的

「ピアノ補習 (2019 年度前期)」の第 3 講目、第 9 講目、第 15 講目において実施したアンケート調査より、学生の練習時間、到達度を分析することを目的としている。また、ピアノ初級者における練習 1 回あたりの平均的な練習時間を明らかにし、ピアノ初級者に対する学習支援の在り方について検討することを目的としている。

3. 研究手順と調査内容

3-1. 研究手順

- (1) 「ピアノ補習(2019年度前期)」の第3講目、第9講目、第15講目においてアンケート調査を実施する。
- (2) 授業開始時から第3講目までを「Ⅰ期」、第3講目から第9講目までを「Ⅱ期」、第9講目から第15講目までを「Ⅲ期」とし、各期における練習1回あたりの平均的な練習時間を分析する。
- (3) (2)に準じ、各期における到達度を分析する。

3-2. 調査内容

- (1) 時期：2019年4月～8月
- (2) 対象：「ピアノ補習」受講者64名のうち、アンケート調査の全てに回答し、且つ「音楽Ⅰ」において、バイエル教則本No.12から学習を始めた学生22名
- (3) 内容：①練習1回あたりの平均的な練習時間
②「音楽Ⅰ(ピアノ)」における、課題Aの到達度

4. 研究内容

4-1. 「音楽Ⅰ(ピアノ)」と「ピアノ補習」の概要と関連性

「音楽Ⅰ」(通年開講科目・演習2単位)は、幼稚園教諭2種免許及び保育士資格取得の必修科目である。前期は、「音楽Ⅰ(ピアノ)」と「音楽Ⅰ(理論)」に細分化し、それぞれを90分で授業展開している。そして、「音楽Ⅰ(ピアノ)」は、個人レッスンを行っている。後期は、「音楽Ⅰ(ピアノ)」と「音楽Ⅰ(声楽)」に細分化し、1クラスを2分割した45分入替制で授業展開している。「音楽Ⅰ(ピアノ)」の到達目標は、以下のようである(表1)。

表1 「音楽Ⅰ(ピアノ)」到達目標

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">① 正確な読譜とテンポ感をもって演奏することができる。② 毎日規則正しく練習時間を確保し、演奏の基礎技術を習得する。③ 楽しく演奏できる気持ちを養う。 |
|---|

また、ピアノ学習の到達度はグレード制で示し、到達目標を達成するために三つの課題を課している。まず、ピアノ演奏の基礎技能を習得する課題(以下、「課題A」と呼ぶ。)、次に、保育現場で用いられる楽曲を演奏する課題(以下、「課題B」と呼ぶ。)、更に、弾

き歌いの技術とレパートリー拡充する課題(以下、「課題 C」と呼ぶ。)を課している(表 2)。

表 2 三つの課題

グレード	課題 A		課題 B	課題 C
	教則本	学習曲		
1	バイエル	12 - 31, 35 - 40 (全 26 曲)	3	A
2		45 - 62, 65 - 69 (全 23 曲)		
3		72, 73, 75 - 83, 85 - 87 (全 14 曲)		A, B
4		88 - 104 (全 17 曲)		
5	ツェルニー 100 番	1 - 14, 16 - 19, 21 (全 19 曲)	7	B, C
6		22 - 31, 33 - 38 (全 16 曲)	4	
7		40 - 43, 46 - 48, 50, 52, 53, 61 (全 11 曲)	6	
8	ツェルニー 30 番	1 - 5 (全 5 曲)	16	C, D
9		6 - 10 (全 5 曲)		
10		11 - 15 (全 5 曲)		
11		16 - 20 (全 5 曲)	18	
12		21 - 25 (全 5 曲)		
13		26 - 30 (全 5 曲)		
14	ツェルニー 40 番以降	第 15 講目までに見開き 2 頁以上の曲を 1 曲	25	C, D, E

課題 A は、『バイエル教則本 (出版社の指定なし)』や『ツェルニー練習曲集 (出版社の指定なし)』を用いている。課題 B は、『マーチアルバム (音楽之友社)』を用いている。課題 C は、『こどもの歌 200 (チャイルド本社)』、『続・こどものうた 200 (チャイルド本社)』を用い、五つのレベルに分けた曲を演奏する(表 3)。

表 3 課題 C における学習曲

レベル	学習曲
A	チューリップ、ちょうちょう、とんぼのめがね (全 3 曲)
B	かたつむり、やまのおんがくか、こぎつね (全 3 曲)
C	とけいのうた、どんぐりころころ、ぞうさん、おばけなんてないさ、せんろはつづくよどこまでも (全 5 曲)
D	あめふりくまのこ、ふしぎなポケット、もみじ、あわてんぼうのサンタクロース、ともだちさんか (全 5 曲)
E	おはながわらった、ちいさいあきみつけた、コンコンクシヤンのうた、とんでったバナナ、いちねんせいになったら (全 5 曲)

課題 A の試験は、第 8 講目、第 15 講目、第 21 講目、第 26 講目、定期試験時に行われる。学生は、各グレードの学習曲を全て修了し、試験前に発表される課題曲を演奏する。そして、1 - 4 グレードを受験する学生には、2 曲の課題曲が提示され、その 2 曲を演奏する。5、6 グレードを受験する学生には、2 曲の課題曲が提示され、その 2 曲を暗譜で演奏

する。7グレードを受験する学生には、2曲の課題曲が提示され、そのうち1曲を教員が当日指定し暗譜で演奏する。8-13グレードを受験する学生には、2曲の課題曲が提示され、そのうち1曲を学生が選択し暗譜で演奏する。14グレードを受験する学生は、1曲を選択し暗譜で演奏する。また、第15講目、定期試験時の試験は、全学生を対象とし、第8講目、第21講目、第26講目は任意とする。

課題Bの試験は、ピアノ担当教員が授業内で行い、課題Cの試験は、第15講目、定期試験時に行われる。

単位取得に関して、1グレードから学習し始めた学生は1及び2グレードを、2グレードから学習し始めた学生は2及び3グレードを、3グレードから学習し始めた学生は3及び4グレードをそれぞれ合格するように指導している。そして、4グレード以上から学習し始めた学生はそのグレードを合格するように指導している。また、2年間でバイエル教則本修了以上のピアノ演奏技術を習得するよう指導している。

「ピアノ補習」は、前期及び後期の授業開講時に併せて開講され、90分でグループレッスンを展開している。1クラスは最大16名とし、学生が入学時に申請した、鍵盤楽器の学習経験や自宅などの練習環境をもとに受講生を選抜している。教員は、学生の到達度を確認するとともに、ピアノの演奏技術、音楽理論に関する疑問を解決しながら、「音楽I（ピアノ）」の課題を補習する。その時、三つの課題の可否を判定することはできない。

4-2. 練習1回あたりの平均的な練習時間

対象学生22名を、入学時のピアノ進度調査票をもとに、A群：入学時にピアノやオルガン等の鍵盤楽器の経験が全くない学生、B群：入学時にピアノやオルガン等の鍵盤楽器の経験がある学生に分類する。そして、I-Ⅲ期における練習1回あたりの平均的な練習時間をまとめる（表4、5）。また、その分布をグラフにまとめる（図1、2）。

A群の全体の平均時間は、I期41分、Ⅱ期58分、Ⅲ期49分である。

学生aの練習時間は、I期15分、Ⅱ期15分、Ⅲ期15分である。練習時間は安定しているが、全期において練習時間が全体の平均の半分にも満たない。

学生bの練習時間は、I期30分、Ⅱ期120分、Ⅲ期60分である。Ⅱ期で練習時間がI期の4倍に増えている。Ⅲ期ではⅡ期の半分に減っているが、I期から見ると2倍になっている。

学生cの練習時間は、I期3分、Ⅱ期60分、Ⅲ期10分である。I期の3分は全体の最

低時間になっている。Ⅱ期では全体の平均時間を僅かに上回ったが、Ⅲ期でまた大幅に減り、平均時間を下回っている。

学生 d の練習時間は、Ⅰ期 60 分、Ⅱ期 30 分、Ⅲ期 30 分である。Ⅱ期で練習時間がⅠ期の半分に減り、全体の平均時間よりも下回っている。Ⅲ期も全体の平均時間を下回っているが、Ⅱ期の練習時間を維持している。

学生 e の練習時間は、Ⅰ期 45 分、Ⅱ期 60 分、Ⅲ期 50 分である。Ⅰ期からⅢ期まで、全体の平均時間とほぼ同じである。Ⅱ期で練習時間が増え、Ⅲ期で減っているが、全期をとおして安定している。

学生 f の練習時間は、Ⅰ期 30 分、Ⅱ期 15 分、Ⅲ期 30 分である。全期において全体の平均時間を下回っている。Ⅱ期では更に練習時間が減り、Ⅲ期で、Ⅰ期と同じ時間に戻っている。学生 g の練習時間は、Ⅰ期 60 分、Ⅱ期 60 分、Ⅲ期 40 分である。Ⅰ期及びⅡ期は、全体の平均時間も上回り練習時間を維持している。Ⅲ期では練習時間が減り全体の平均時間を下回っている。

学生 h の練習時間は、Ⅰ期 30 分、Ⅱ期 60 分、Ⅲ期 30 分である。Ⅰ期では全体の平均時間を下回っているが、Ⅱ期で平均時間を僅かに上回るところまで増えている。しかし、Ⅲ期ではまたⅠ期と同じ時間に戻り、平均時間を下回っている。

学生 i の練習時間は、Ⅰ期 90 分、Ⅱ期 120 分、Ⅲ期 120 分と、全期において全体の平均時間を大きく上回っている。Ⅰ期の 90 分はⅠ期の最高時間であるが、Ⅱ期では更に練

表 4 A 群：練習 1 回あたりの平均的な練習時間 (分)

経験	学生	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期
A 群	a	15	15	15
	b	30	120	60
	c	3	60	10
	d	60	30	30
	e	45	60	50
	f	30	15	30
	g	60	60	40
	h	30	60	30
	i	90	120	120
	j	30	60	90
	k	60	90	90
	l	30	60	60
	m	45	60	60
	n	45	70	40
	o	45	30	45
	p	30	15	15
平均時間 (分)		41	58	49

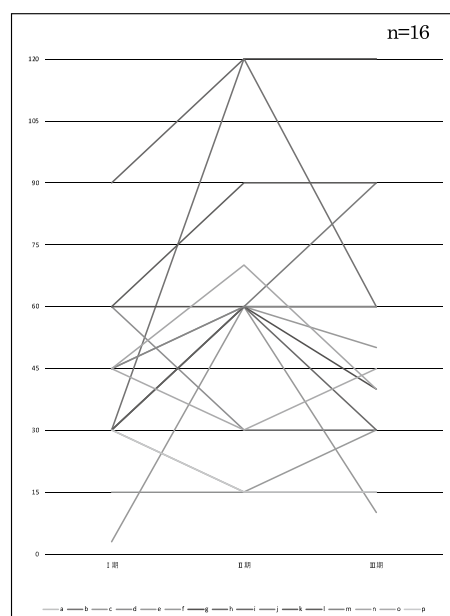


図 1 A 群：練習 1 回あたりの平均的な練習時間の分布 (分)

習時間を増やし、Ⅱ期及びⅢ期の120分は全体の最高時間である。

学生jの練習時間は、Ⅰ期30分、Ⅱ期60分、Ⅲ期90分である。Ⅰ期では全体の平均時間を下回っているが、Ⅰ期からⅢ期まで30分ずつ練習時間を増やし、Ⅱ期及びⅢ期では平均時間を上回っている。

学生kの練習時間は、Ⅰ期60分、Ⅱ期90分、Ⅲ期90分である。全期において全体の平均時間を上回っている。Ⅰ期から練習時間を確保できているが、Ⅱ期で更に練習時間を増やし、Ⅲ期でも維持している。

学生lの練習時間は、Ⅰ期30分、Ⅱ期60分、Ⅲ期60分である。Ⅰ期では全体の平均時間を下回っているが、Ⅱ期で練習時間を倍に増やし、Ⅲ期でも維持している。

学生mの練習時間は、Ⅰ期45分、Ⅱ期60分、Ⅲ期60分である。Ⅰ期及びⅡ期は、全体の平均時間とほぼ同じである。Ⅱ期で練習時間が増え、Ⅲ期でも維持している。

学生nの練習時間は、Ⅰ期45分、Ⅱ期70分、Ⅲ期40分である。Ⅰ期は全体の平均時間とほぼ同じである。Ⅱ期では練習時間を増やしたが、Ⅲ期ではⅠ期よりも練習時間が減り、全体の平均時間を下回っている。

学生oの練習時間は、Ⅰ期45分、Ⅱ期30分、Ⅲ期45分である。Ⅰ期では全体の平均時間とほぼ同じであったが、Ⅱ期で練習時間が減った。しかし、Ⅲ期でⅠ期と同じ時間に戻っている。

学生pの練習時間は、Ⅰ期30分、Ⅱ期15分、Ⅲ期15分である。全期において全体の平均時間を下回っている。Ⅱ期で更に練習時間が減り、Ⅲ期も練習時間が短いまま維持している。

B群についてみると、全体の平均時間はⅠ期36分、Ⅱ期38分、Ⅲ期46分であった。

学生qの練習時間は、Ⅰ期30分、Ⅱ期30分、Ⅲ期45分である。全期において全体の

表5 B群：練習1回あたりの平均的な練習時間（分）

経験	学生	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期
B群	q	30	30	45
	r	30	30	30
	s	45	30	30
	t	20	25	20
	u	60	75	90
	v	30	40	60
練習時間（分）		36	38	46

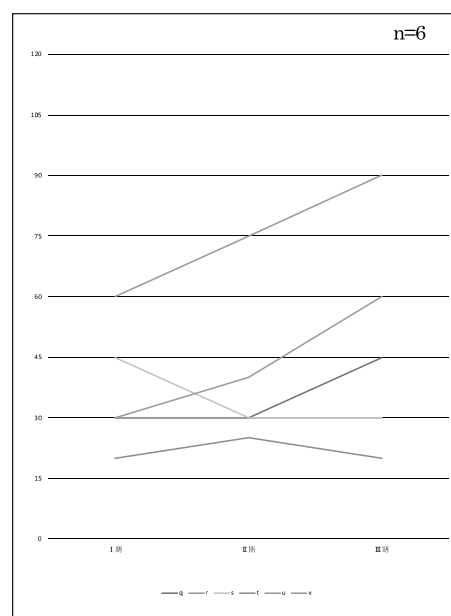


図2 B群：練習1回あたりの平均的な練習時間の分布（分）

平均時間を僅かに下回っている。Ⅲ期では練習時間を増やしたが、全体の平均時間には僅かに及んでいない。

学生 r の練習時間は、Ⅰ期 30 分、Ⅱ期 30 分、Ⅲ期 30 分である。全期において全体の平均時間を下回っているが、Ⅰ期からⅢ期まで同じ時間を維持している。

学生 s の練習時間は、Ⅰ期 45 分、Ⅱ期 30 分、Ⅲ期 30 分である。Ⅰ期では全体の平均時間を上回っているが、Ⅱ期で練習時間が減っている。また、Ⅲ期はⅡ期の練習時間を維持している。

学生 t の練習時間は、Ⅰ期 20 分、Ⅱ期 25 分、Ⅲ期 20 分である。全期において全体の平均時間を下回り、練習時間はいずれも 30 分未満である。Ⅰ期からⅢ期まで練習時間の変動は少ない。

学生 u の練習時間は、Ⅰ期 60 分、Ⅱ期 75 分、Ⅲ期 90 分である。全期において全体の平均時間を大きく上回っている。Ⅰ期からⅢ期まで練習時間を徐々に増やしている。

学生 v の練習時間は、Ⅰ期 30 分、Ⅱ期 40 分、Ⅲ期 60 分である。Ⅰ期は全体の平均時間を下回っているが、Ⅱ期で練習時間を増やし、Ⅱ期及びⅢ期は全体の平均時間を上回っている。Ⅰ期からⅢ期まで練習時間を徐々に増やしている。

4-3. 「音楽Ⅰ（ピアノ）」における、課題 A の到達度

4-2. において分類した A 群及び B 群の学生の、到達度をまとめる（表 6、7）。また、その分布をグラフにまとめる（図 3、4）。

A 群についてみると、各期終了時の全体の平均到達度は、Ⅰ期が 24、Ⅱ期が 53、Ⅲ期が 58 であった。

学生 a の到達度は、Ⅰ期 21、Ⅱ期 45、Ⅲ期 52 である。全期において全体の平均より下回っているが、滞りなく学習曲を進めていることがわかる。

学生 b の到達度は、Ⅰ期 27、Ⅱ期 55、Ⅲ期 58 である。ほぼ全体の平均と一致している。Ⅰ期及びⅡ期は多くの学習曲を進めているが、Ⅲ期は 3 曲のみである。

学生 c の到達度は、Ⅰ期 19、Ⅱ期 40、Ⅲ期 45 である。全期において全体の平均より下回っている。Ⅱ期では多くの学習曲を進めているが、Ⅲ期では 1 曲のみである。Ⅲ期終了時には、1 グレード修了まで到達している。

学生 d の到達度は、Ⅰ期 36、Ⅱ期 69、Ⅲ期 69 である。全期において全体の平均より上回っている。Ⅱ期とⅢ期の到達度が同じことから、Ⅲ期はバイエル教則本の学習曲を進

めていないことがわかる。Ⅲ期終了時には、2グレード修了まで到達している。

学生eの到達度は、Ⅰ期30、Ⅱ期58、Ⅲ期57である。Ⅲ期の到達度よりⅡ期の方が到達数が多いため、順番を入れ替えて学習した可能性が考えられるが、Ⅲ期終了時の到達度は、全体の平均と一致している。

学生fの到達度は、Ⅰ期20、Ⅱ期46、Ⅲ期50である。全期において全体の平均より下回っている。Ⅱ期で多くの学習曲を進めている。

学生gの到達度は、Ⅰ期20、Ⅱ期49、Ⅲ期52である。全期において全体の平均より下回っている。Ⅱ期で多くの学習曲を進めているが、Ⅲ期は3曲のみである。

学生hの到達度は、Ⅰ期16、Ⅱ期52、Ⅲ期58である。Ⅰ期では、全体の平均より大きく下回っているが、Ⅱ期でペースを早め、Ⅲ期には全体の平均に追いついている。

学生iの到達度は、Ⅰ期18、Ⅱ期40、Ⅲ期40である。全期において全体の平均より下回っている。Ⅱ期とⅢ期の到達度が同じことから、Ⅲ期は学習曲を進めていないことがわかる。Ⅲ期終了時には、1グレード修了まで到達している。

学生jの到達度は、Ⅰ期21、Ⅱ期53、Ⅲ期58である。Ⅰ期では、全体の平均より下回っているが、Ⅱ期で全体の平均に追いついている。

学生kの到達度は、Ⅰ期36、Ⅱ期65、Ⅲ期76である。全期において全体の平均より大きく上回っている。Ⅰ期及びⅡ期は学習曲を20曲以上進め、Ⅲ期は8曲と少なくなっ

表6 A群：課題Aの到達度

経験	学生	開始時	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期
A 群	a	12	21	45	52
	b	12	27	55	58
	c	12	19	40	45
	d	12	36	69	69
	e	12	30	58	57
	f	12	20	46	50
	g	12	20	49	52
	h	12	16	52	58
	i	12	18	40	40
	j	12	21	53	58
	k	12	36	65	76
	l	12	18	61	62
	m	12	25	52	57
	n	12	19	61	65
	o	12	37	56	69
	p	12	15	52	56
平均到達度			24	53	58

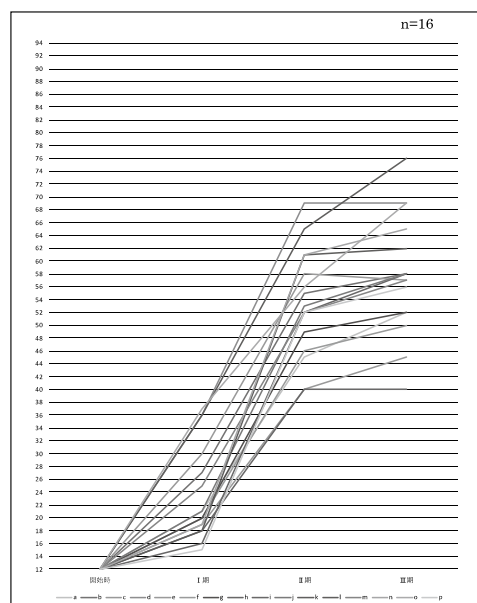


図3 A群：到達度

ている。

学生 l の到達度は、Ⅰ期 18、Ⅱ期 61、Ⅲ期 62 である。Ⅰ期では全体の平均より下回っているが、Ⅱ期で多くの学習曲を習熟し、平均を上回っている。Ⅲ期では学習曲を 1 曲進めたのみである。

学生 m の到達度は、Ⅰ期 25、Ⅱ期 52、Ⅲ期 57 である。Ⅱ期及びⅢ期では、僅かに全体の平均を下回っているが、ほぼ全体の平均と一致している。

学生 n の到達度は、Ⅰ期 19、Ⅱ期 61、Ⅲ期 65 である。Ⅰ期では全体の平均より下回っているが、Ⅱ期で多くの学習曲を習熟し、平均を上回っている。Ⅲ期では学習曲を 2 曲進めたのみである。

学生 o の到達度は、Ⅰ期 37、Ⅱ期 56、Ⅲ期 69 である。全期において全体の平均より上回っている。Ⅰ期からⅢ期にかけて徐々に学習曲数が減っているが、滞りなく学習を進めていることがわかる。Ⅲ期終了時には、2 グレード修了まで到達している。

学生 p の到達度は、Ⅰ期 15、Ⅱ期 52、Ⅲ期 56 である。Ⅰ期では全体の平均より大きく下回っているが、Ⅱ期及びⅢ期では、全体の平均にほぼ一致するところまで学習を進めている。

B 群についてみると、各期終了時の全体の平均到達度は、Ⅰ期が 39、Ⅱ期が 61、Ⅲ期が 74 であった。

学生 q の到達度は、Ⅰ期 30、Ⅱ期 47、Ⅲ期 49 である。全期において全体の平均より下回っている。Ⅰ期では学習曲を 19 曲進めているが、Ⅱ期で学習曲が減り、Ⅲ期では学習曲を 2 曲進めたのみである。

学生 r の到達度は、Ⅰ期 35、Ⅱ期 77、Ⅲ期 92 である。Ⅰ期では全体の平均を下回って

表 7 B 群：課題 A の到達度

経験	学生	開始時	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期
B 群	q	12	30	47	49
	r	12	35	77	92
	s	12	35	60	84
	t	12	25	54	60
	u	12	54	67	78
	v	12	54	62	80
平均到達度			39	61	74

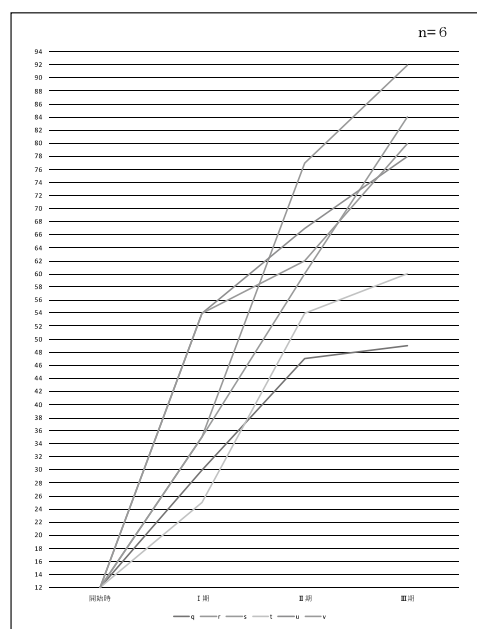


図 4 B 群：到達度

いるが、Ⅱ期で多くの学習曲を習熟し、全体の平均を大きく上回った。Ⅲ期でも学習ペースを維持し、難易度の高い曲を14曲進めている。

学生sの到達度は、Ⅰ期35、Ⅱ期60、Ⅲ期84である。Ⅰ期では全体の平均を下回っているが、Ⅱ期では全体の平均にほぼ追いついた。Ⅲ期でも学習ペースを維持し、全体の平均を上回っている。

学生tの到達度は、Ⅰ期25、Ⅱ期54、Ⅲ期60である。全期において全体の平均より下回っている。Ⅰ期では全体の平均より大きく下回っているが、Ⅱ期で多くの学習曲を習熟している。しかし、全体の平均には追いつかず、Ⅲ期では再び学習ペースを落としている。

学生uの到達度は、Ⅰ期54、Ⅱ期67、Ⅲ期78である。全期において全体の平均より上回っている。Ⅰ期では全体の平均を大きく上回っているが、Ⅱ期及びⅢ期では平均よりも僅かに上回っている程度である。

学生vの到達度は、Ⅰ期54、Ⅱ期62、Ⅲ期80である。Ⅰ期では全体の平均を大きく上回っているが、Ⅱ期で学習曲が極端に減り、平均と同程度である。また、Ⅲ期では平均よりも僅かに上回っている。

5. 研究結果と考察

5-1. 練習1回あたりの平均的な練習時間

A群のⅠ期は、平均的な練習時間が3-90分であった。そして、練習時間が30-60分の学生が多いとわかった。練習時間は、学生によって大きく差があると言える。

Ⅱ期は、平均的な練習時間が15-120分であった。そして、練習時間が60分の学生が多いとわかった。Ⅰ期と比較し、練習時間が増えた学生が半数を超えていた。これは、「音楽Ⅰ（ピアノ）」の第8講目で実施された試験に向け練習時間を増やした学生や、Ⅰ期の到達度から練習時間を増やす必要性を感じた学生がいたのではないかと考えられる。また、練習時間が減った或いは同じであった学生の半数は、Ⅰ期でも平均時間を下回っていた。

Ⅲ期は、平均的な練習時間が10-120分であった。そして、練習時間が30-50分の学生が多いことがわかった。Ⅱ期と比較し、練習時間が同じであった学生の割合が大幅に増えていることから、練習する心構えや時間確保などの環境を整えていく学生が増えたのではないかと考えられる。一方で、練習時間が増えた或いは練習時間が減った学生の割合も半数となり、練習時間を確保しようとする学生が増えたのではないかと考えられる。

B群のⅠ期は、平均的な練習時間が20-60分であった。そして、練習時間が30分の学

生が多いことがわかった。また、練習時間が60分を超える学生は見られず、B群Ⅰ期の平均時間は、A群Ⅰ期の平均時間より短くなっている。

Ⅱ期は、平均的な練習時間が25-75分であった。そして、練習時間が30分の学生が多いことがわかった。Ⅰ期と比較し、練習時間が増えた学生が半数であった。しかし、その時間は5-15分増やす程度である。これは、学習曲の難易度が上がっていくことによって、練習時間を増やしていったのではないかと考えられる。一方で、練習時間が減った学生もいた。

Ⅲ期は、平均的な練習時間が20-90分であった。そして、練習時間は学生によって様々であった。Ⅱ期と比較し、練習時間が増えた学生は半数であった。また、その練習時間を15-20分増やすことが出来ている。これは、「音楽Ⅰ（ピアノ）」第15講目で実施された試験に向けて練習時間を増やしたのではないかと考えられる。一方で、練習時間が減った学生もいた。

5-2. 「音楽Ⅰ（ピアノ）」における、課題Aの到達度

A群のⅠ期は、課題Aの到達度が15-37であった。そして、到達度が18-21の学生が多いことがわかった。Ⅰ期の到達度は学生によって差があり、ゆっくりと進む学生が多くみられる。これは、ピアノの基礎的な演奏技能を習得するのに時間がかかり、学習曲の到達度を上げられなかったことが考えられる。また、18-21では音価やフレージングの複雑化がみられ、重音を弾くテクニックの習得など課題が難しくなっている。

Ⅱ期は、課題Aの到達度が40-60であった。そして、到達度が52-58の学生が多いことがわかった。また、Ⅱ期の到達度は急激に上昇している。これは、学生がⅠ期よりも多くの学習曲を習熟したことに起因すると考えられる。また、52-58では6/8拍子、ト長調のポジション、ヘ音記号の読譜など課題が難しくなり、練習に時間を要する学生がいたのではないかと考えられる。

Ⅲ期は、課題Aの到達度が40-76であった。そして、到達度が56-58の学生が多いことがわかった。Ⅲ期の到達度は、ほぼ前期と変化なし、または僅かに上昇しているに留まった。これは、「音楽Ⅰ（ピアノ）」第11講目において試験課題曲の提示があったため、学生は学習中の曲の練習を中断したり、時間を減らしたりしたことに起因するのではないかと考えられる。また、56-58ではヘ音記号の読譜が必要となり、練習に時間を要する学生がいたのではないかと考えられる。

B群のⅠ期は、到達度が25-54であった。そして、到達度が35及び54の学生が複数いたことがわかった。Ⅰ期の到達度は学生によって差が生じているものの、A群とは異なりどの学生も到達度が上昇している。これは、B群の学生が、ピアノの演奏技能を既に習得しており、学習を円滑に進めることができたのではないかと考えられる。また、54ではヘ音記号の読譜が必要となり、練習に時間を要する学生がいたのではないかと考えられる。

Ⅱ期は、到達度が47-77であった。そして、到達度は学生によって異なった。Ⅱ期の学生の到達度は、殆どの学生がⅠ期と同じように上昇している。しかし、Ⅰ期より上昇の度が低くなっている学生もみられた。これは、54以降の上昇の度が低くなっていることから、ヘ音記号の読譜に時間を要する学生がいたのではないかと考えられる。

Ⅲ期は、到達度が49-92であった。また、到達度が78-84の学生が多いことがわかった。Ⅲ期の学生の到達度は、学生によって大きく異なった。また、78-82では、様々な調性の学習曲が続くため練習に時間を要する学生がいたのではないかと考えられる。

6. まとめと課題

本研究において、各期におけるA群、B群それぞれの練習1回あたりの平均的な練習時間及び到達度についての結果が得られ、学生の練習時間と到達度の実態がわかった。また、A群とB群では、練習時間と到達度のどちらにも差があることがわかった。

練習1回あたりの平均的な練習時間では、A群は、各々の練習時間に大きな差があり、60-120分練習している学生もみられた。また、各期で練習時間が大きく変動している学生が多かった。一方、B群は、30-45分の練習時間の学生が多く、各期で練習時間の変動が少なかった。この結果から、A群は、B群より演奏技術の習得に多くの時間が必要であったことがわかる。また、A群は練習時間の変動が大きかったことから、演奏技術の習得や練習方法について模索していたことが考えられる。

課題Aの到達度では、A群は、学習を始めて1ヶ月程は到達度が低かったが、練習を継続することによって到達度が急激に上がっていった。一方、B群は、学習を始めてすぐに到達度が上がっていった。この結果から、ピアノ初級者がピアノ演奏技術を習得するには練習時間が必要であることがわかる。また、基礎的な演奏技術を身につけることによって、到達度を急激に上げることができるのではないかと考えられる。しかし、学習曲によって、その内容の複雑さから到達するのに多くの練習時間が必要であることもわかった。

「ピアノ補習」を担当する教員は、学生がピアノの学習を始める時に①ピアノ初級者のピアノ演奏技術の習得には練習時間が必要であること、②練習にかける時間や継続的な練習が必要であることを示すことが重要であると確認できた。そして、前述①②を学生が行うことによって、基礎的な演奏技術を習得することが出来るようになり、到達度を上げることができることを示すことができる。また、学生が練習方法を理解して学習することによって、学習に対する疑問や不安を少なくすることができると考えた。

「ピアノ補習」を受講する学生は、時間をかけ課題に向き合うことができている。そして、「音楽Ⅰ（ピアノ）」における課題合格を目指し、演奏技術の問題を解決している。また、学生が自ら質問をするなど、前向きに取り組む姿が見られるようになった。

今後、筆者たちは、保育士養成課程において初めて鍵盤楽器の演奏を経験する学生が、円滑に学習に取り組んでいけるよう、より適切な学習環境を整え、各々に合わせた支援を心がけたいと考えている。

註釈

- 1) 内山尚美, 高橋摩衣子「音楽表現指導についての一考察：こどもの音楽におけるピアノ初学者の指導に関して」東海学院大学短期大学部紀要（40）, pp.83-91, 2014.
- 2) 本稿では、『Vorschule im Klavierspiel op.101 / F.Beyer, 1806-1863』日本語訳版を「バイエル教則本」として取り扱っている。
- 3) 堀上みどり「『バイエル』によって獲得される音楽性の限界」環太平洋大学研究紀要（13）, pp.17-25, 2018.

Research on the Exercise Time and Achievement Degree of Beginner of the Piano in the Childcare Worker Education: Study by the Investigation to Beginner of the Piano

Takeda, Megumi* Fuse, Erina*

昨今、保育士養成課程では、多くの学生が鍵盤楽器の演奏経験がないまま入学し、その演奏方法を習得するだけでなく、学習方法についても日々模索しているように感じている。そこで、本研究では、学生の練習 1 回あたりの平均的な練習時間、課題の到達度を調査し、学生の現状把握を試みた。

ピアノ初級者の練習 1 回あたりの平均的な練習時間を明らかにすることによって、学生への学習支援の在り方を検討することを目的とし、ピアノ初級者の演奏技術の習得には、継続的な練習時間の確保が必要であることがわかった。また、演奏技術を習得することによって、到達度を上げることができることもわかった。教員が適切な練習方法を示すことで、学生が惑うことなく学習に取り組むことができる考えた。また、この調査が今後の学習支援の方法を探ることへのきっかけとなればと考えた。

キーワード：保育士養成, ピアノ, 初級, 練習時間, 到達度